

2019年度 自己評価報告書

2020年 5月 21日

学校法人 佐賀ルーテル園
唐津ルーテルこども園

1. 本園の教育目標

(1) 教育方針

キリスト教精神を土台にした人間教育を目的としており、乳幼児期における健全な心身、宗教的情操、隣人愛等の育成に重点をおいている。

- ① 生涯の土台となる心を育てる。
- ② 一人ひとりの人格を大切にし、心の行き届いた保育を目指す
- ③ 豊かな心、信頼の心、感謝の心、意欲的な心の土台を育てる。
- ④ 友だちとともに生活することに喜びを持つ心を育てる。
- ⑤ いろいろな実際体験を多く保育に取り入れ、体験や遊びを通して心身が健全に育つよう
- ⑥ 健康なからだ作りを目指す。(薄着奨励)
- ⑦ 家庭と園の連携を大切にし、保護者と教諭等が協力し、子どもの成長に手を添えていく。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ① 生活の中で必要な言葉や自分の気持ちを豊かに表現する力を育てる。
 - ・保育者が使う言葉の「質」と「量」を高めるための学びを深める。
 - ・さまざまな体験を通して、相手の気持ちに気づき、言葉による伝え合いができるような保育者の関わりを考える。
 - ・絵本や聖話に親しむ。
- ② 感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造力を豊かにする。
- ③ 生活とあそびの中で意欲をもって食に関わる。
 - ・食に関する環境を見直していく。
 - ・個人の発達段階に沿った環境を整え、関わりをもつ。
 - ・家庭との連携を深める。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	子どもの人権、安全と健康	<ul style="list-style-type: none">・本年度の目標にも照らし合わせながら、意識し取り組むことができた。・子どもを見つめる中で、保育者自身の課題を見出すことにつながった。・学年を通しての共通理解（いつでもどこでも同じ対応）ができるように今後も取り組んでいきたい。
2	教職員の資質向上・研修	<ul style="list-style-type: none">・今年度は、例年のような形式の園内研の形ではなく、子どもの姿からの気づきについて協議し、共通理解のもとで、子どもの育ち、保育の展開につなげることができた。・活動ごとの発達段階が見えるようなまとめを工夫していきたい。・勤務形態によらず、研修への窓口を開くことができたことは職員の向上心等、良い結果につながったが、園内研修の充実については、課題意識をもち、更に取り組んでいきたい。

3	こども理解・指導の計画等	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の連携、進級時の引継ぎ、特に配慮の必要な子どもへの対応方法の周知などを心掛けるようにすることが必要。 ・振り返りや記録を取る時間の確保、学年での話し合いなど、時間を作り出す工夫をしている所であるが、意見を出しやすい環境、記録の形態などを考えていく。
4	衛生管理	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的意識して取り組むことができている。 ・年度末の新型コロナウイルス対策等により、職員間での衛生管理への意識の向上が見られた。 ・アレルギー対応については、看護師、栄養士、担当職員との共通認識の中で、更に十分な配慮ができる体制を整えたい。 ・園内の清掃、整備に関してはさらに心掛けていく。
5	家庭及び地域連携 子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・面談、オリブノートなどを通して、家庭との連携は意識して取り組んでいる。 ・子育て支援においては、発達に即した活動に取り組み、地域の子育て支援として母親の安心感につながっていると感じている。
6	運営体制	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員が園の理念や方針を意識しながらそれぞれの部門で役割を果たしていると感じていた。 ・会議・打合せ・振り返り、保育準備、休憩などの必要な時間の確保ができる配置を考えてより効率よくかつ効果的に保育に取り組むことができる環境を整えたい。 ・会計事務に関しては、会計士による確認等含めて健全に行われていると思う。

4. 総合的な評価結果

評価
<p>本年度の目標・計画に対する評価として、各職員が目標を意識し、取り組む姿勢が伺えた。また、職員がモデルとなることで、子どものみならず、職員同士の学び合いに繋がった。特に言葉に関しては、それぞれが意識しあうことにより、職員の言葉の質の向上にも繋がり、成果を感じている。各学年での気づきや学びをまとめることで、他学年の発達や育ちを知り、保育に展開することができるようにしていきたい。</p>

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	0歳児からの発達の学びを共通理解できるようにまとめる。	食事、運動、遊びなどテーマを決め、同じテーマでそれぞれの学年の発達に応じた研究を行う。日々の保育の中でポイントとしていることを記録することで、共通理解に繋げていきたい。
2	園内研修の内容の充実	それぞれの得意分野を広げながら、伝えあうことができる研修や、学年ごとに年間を通して一つのコーナーを担当しながら、その動きや展開などを研究するなど、職員が主体的に取り組むことができる内容を協議していきたい。
3	職員配置・時間配分について	十分な振り返りや打ち合わせの時間の確保ができていない現状が見受けられた。全体を見通しながら、柔軟に配置、配分ができるように職員の連携を図っていきたい。

6.学校関係者評価

「教育方針」に即した年間カリキュラム・月案が立てられ、日々の保育が丁寧に行われています。日誌に記されている特記事項を見ると、保育者が一人一人に寄り添っていることが伺えます。「一人ひとりの人格を大切に、心の行き届いた保育を目指す」が実践されています。

これらの評価は、これからの保育のためのものです。評価できている（されている）ところは、どうぞ自信を持ってさらにのばして行っていただきたいと思います。また、自らの欠けの部分については、どうしたらそれを解決できるのかを各自（みんな）で考えて行っていただけたらと思います。

監 事 岩切 雄太

本学園の本年度の取り組む重点目標・計画に「言葉による表現力」の質・量等を学ぶとしていますが、年齢、性別、地位、宗教、人権等に関係なく「言葉」は大事な手段ですから、本年度に限らず、今後も引き続き取り組んで下さい。

監 事 波田 公男

7.財務状況

学校法人佐賀ルーテル学園の令和2年度3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び、同日現在の財政状態をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

公認会計士 藤崎 武

公認会計士 坂田 達哉

公認会計士監査により、園の運営、財務管理は、適正に行われていると認められています。

監 事 岩切 雄太

監 事 波田 公男